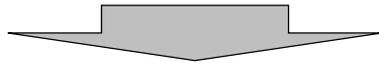


これまでの経緯と完了目標

令和6年5月13日 第1回 護岸復旧会議

- ・護岸復旧方針作成に向けた今後の進め方の確認
- ・民有護岸の復旧方法(例)の提示



令和6年5月下旬
～7月上旬 個別ヒアリング

- ・護岸復旧の流れ(イメージ)の提示
- ・護岸復旧方法に係る意向確認



令和6年7月23日 第2回 護岸復旧会議

- ・護岸復旧方法・留意点の提示



令和6年9月26日 第3回 護岸復旧会議
令和6年9月27日 護岸復旧工事の入札手続き開始

- ・護岸復旧方針のとりまとめ



令和6年12月20日 護岸の本格復旧工事の全面着工



令和7年3月19日 仮設道路整備のための捨石投入を開始

背後にある旅館の再建と歩調を合わせつつ、令和8年度中を目途に可能な限り早期の完成を目指す。

護岸復旧のポイント

ポイント①

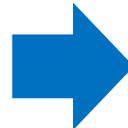
1日も早いなりわい再生のための
護岸の早期復旧・再整備



護岸と旅館建物の復旧等を同時に進めることで、**温泉地域全体の復旧工事期間をできる限り短縮。**

ポイント②

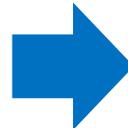
和倉温泉の**魅力の維持**



可能な限り護岸の高さを変えずに復旧・再整備することで、**眺望に配慮。**

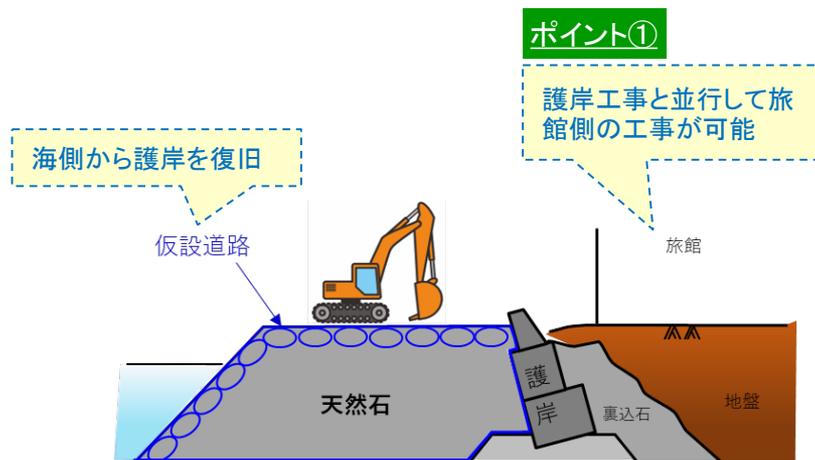
ポイント③

周辺の**環境に配慮**

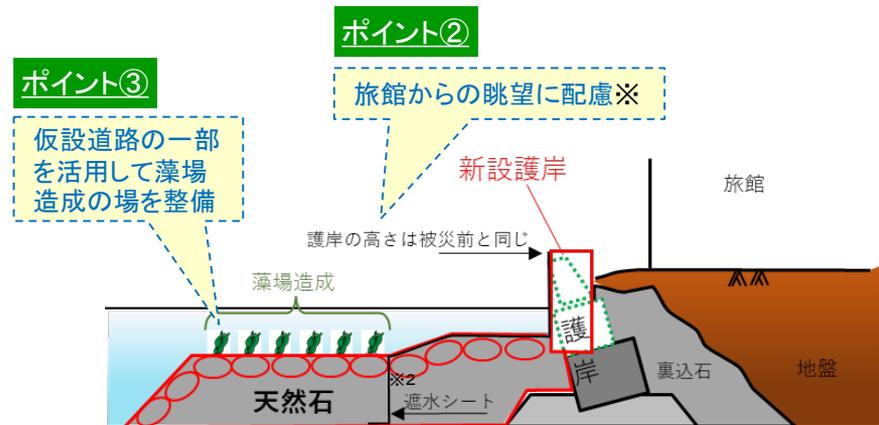


天然石を使用し、護岸を藻場造成の場として活用することで、**水産振興にも寄与。**

【工事中(イメージ図)】



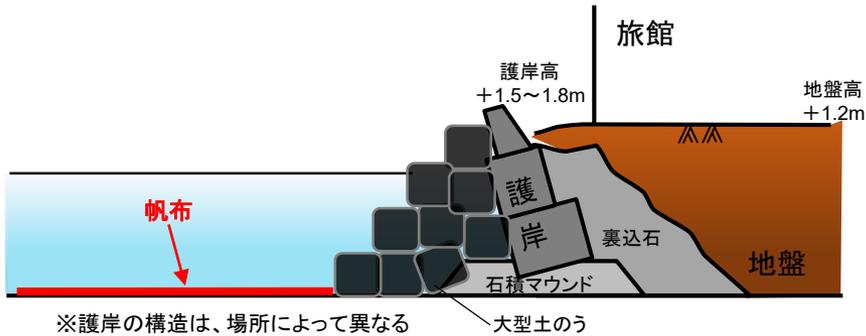
【復旧等完了後(イメージ図)】



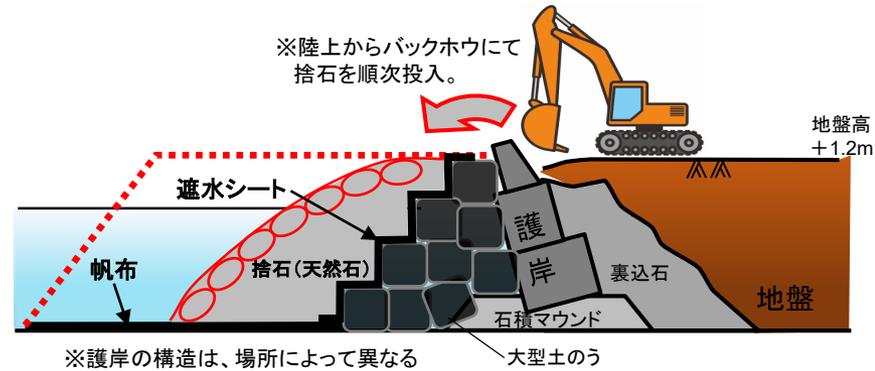
※ 護岸の海側に上図のような浅い場所を設けることで、荒天時の陸域への越波量を減少させることが可能。そのため、護岸を高くするのを避けることができることから、ポイント②の実現に寄与。

「仮設道路」施工手順

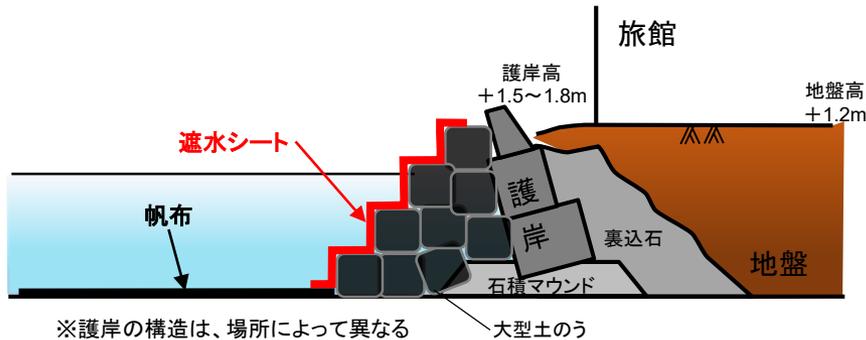
① 帆布敷設



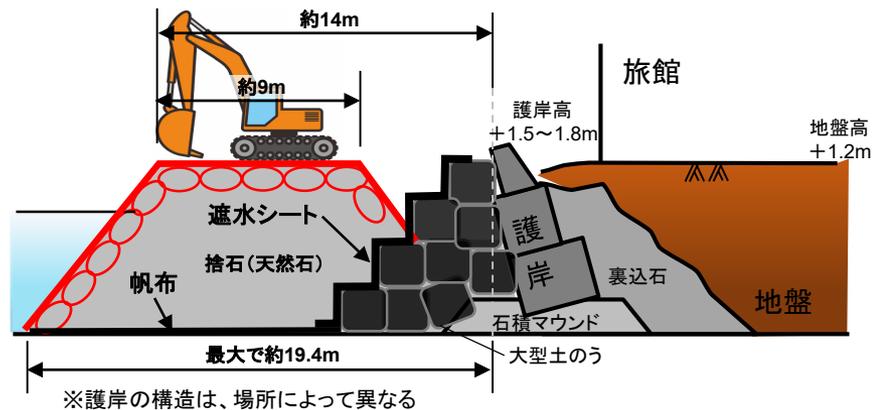
③ 捨石投入 (本日より開始)



② 遮水シート敷設



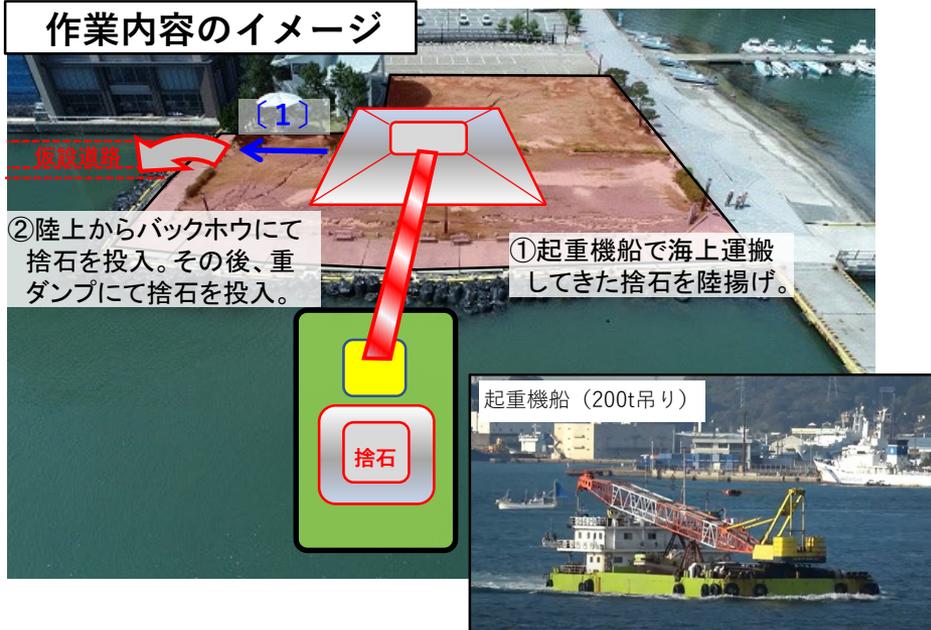
④ 仮設道路完成



「捨石投入」施工手順

- ① 起重機船で海上運搬してきた捨石を陸揚げ
- ② 陸上からバックホウにて捨石を投入し、乗り入れ場所を整備後、重ダンプにて捨石を投入

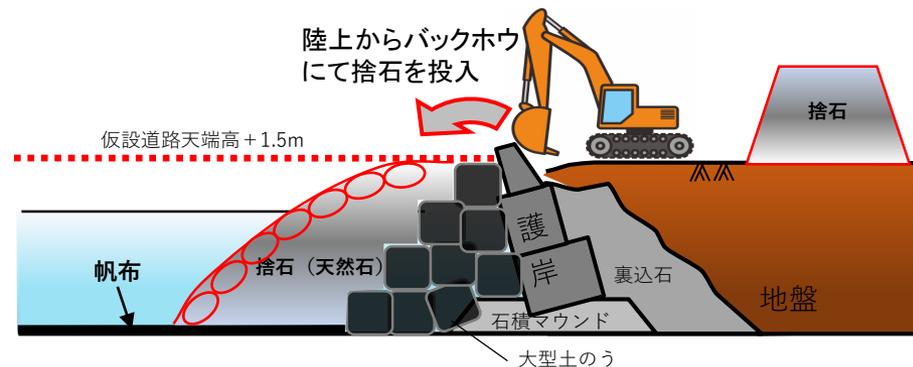
作業内容のイメージ



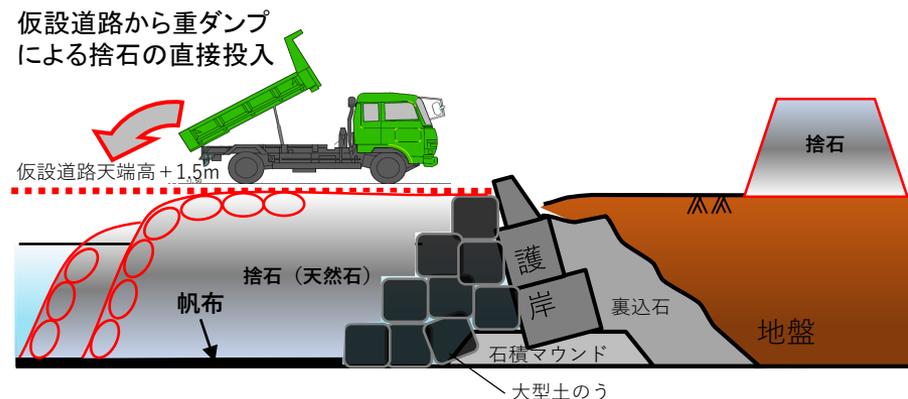
写真〔1〕 仮設道路設置イメージ



バックホウによる捨石投入 (イメージ)



重ダンプによる捨石投入 (イメージ)



護岸復旧の整備主体

護岸全延長：約3,470m
(※1、2の延長を含む)

| | |
|--------------|----------------|
| | 和倉港区域 |
| | 県管理 |
| | 市管理 |
| | 民間管理 |
| | 民間管理 → 公有化済 |
| | 仮設道路 |
| | 作業ヤード |
| | 石材投入場所 |
| [公有化しない民有護岸] | |
| ※1 | 所有者自ら復旧 (190m) |
| ※2 | 復旧不要 (90m) |



北陸地方整備局
(公有化して再整備する予定の民有護岸を含む)
約1,090m
(※1、2の延長は含まない)

国土地理院HP (<https://maps.gsi.go.jp/>) を活用し、国土交通省北陸地方整備局能登港湾空港復興推進室が作成